

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	1175100740
法人名	社会福祉法人 晴智会
事業所名	グループホーム晴和苑
所在地	〒352-0002 埼玉県新座市東3-7-26 (電話) 048-473-3388

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年3月16日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算 8.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	地下1階、地上3階建ての地上1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	2,600 円	その他の経費(月額)	24,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日あたり 1,200円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新座志木中央総合病院、立川歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは駅から近く、落ち着いた住宅地の中に特別養護老人ホームやデイサービス等と併設して建てられている。ホームの玄関前の庭では日光浴や外気浴、食事をしたり、また地域の人との接点としても有効に活用している。利用者には笑顔があり活動的で、またホームの中も明るすぎず生花も絶えることもない。ホームは家庭的で落ち着いた雰囲気であり、各居室にはトイレも設置されている。「明るく」「楽しく」「地域とともに歩む」をコンセプトにしており、職員は利用者への接し方や言葉遣いが丁寧で、本人の発した言葉を大切にされた支援が行われている。また、家族への相談等の支援や家族の持つ力を取り込んで、家族と一緒にホームで生活する利用者を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の外部評価では、「職員を育てる取り組み」と「同業者との交流を通じた向上」の項目が取り組みを期待したい内容として挙げられた。これらの項目についての職員全体での話し合いは行われているが、事業所の人員や業務等の関係もあり、改善に向けた具体的な計画や活動には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の目的や意義などを職員に説明したうえで、職員個々に評価票を配布して内容をまとめている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回の頻度で行われている。利用者や利用者家族、地域の民生委員、担当する地域包括支援センターの職員、市の担当課職員、理事長及び施設長とホーム職員が参加して、ホームの行事、感染症などの課題等について話し合いを持ち、会議録も整理されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月写真を多く使った広報誌「縁助居便り(エンジョイダヨリ)」を発行して出納帳と一緒に家族へ送付している。家族が面会した時には家族とホーム職員の間で「交換ノート」を使っての情報交換も行われている。また、年に1回、家族との懇談会も行われ、意見や要望を聞くようになっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や老人会への参加はないが、地域の中学生や職場体験の大学生、折り紙やアコーディオンの演奏等のボランティアの訪問が多くある。また、地域で行われる盆踊りには利用者も参加している。ホームの玄関前の庭が、地域の人との窓口としても有効に機能している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「明るく、楽しく、地域とともに歩むグループホーム」として掲げ、自然の光を浴びて陽気な音楽と元気な会話のある生活を明るさで表現し、楽しさは気心の知れた仲間と顔馴染みの職員環境での生活を、また地域の人や自然に普段の生活の中で触れる時間の大切さを表している。実践が利用者の笑顔や活動に垣間見られる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関等に掲示し、管理者も職員と働く中で理念を具体化して伝えている。不安な利用者の対応としてその人の話した言葉を大事にすることからその人を理解し、一緒に考えていく姿勢を大切するなど理念を具体的に実践につなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会への参加はないが、地域の中学生や職場体験の大学生、折り紙やアコーディオンの演奏等のボランティアの訪問が多くある。また、地域で行われる盆踊りには利用者も参加している。		ホームは特別養護老人ホームやデイサービスセンター等と併設して住宅街にある。自治会や老人会の活動、地域の行事はその地域により内容や頻度等も異なるが、地域と双方向の関係づくりが出来るよう積極的な取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的や意義を職員に説明している。自己評価については、評価票を職員個々に配布し、内容をまとめている。外部評価の結果については職員の全体会で話し合っている。		昨年度の外部評価の課題であった「人材の育成と支援」について、話し合いは行われているが課題の改善に向けた具体的な計画や活動には至っていない。事業所として課題を改善につなげて検証して行く過程を具体的な仕組みとして維持されることを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回の頻度で開催され、利用者や利用者家族、民生委員、担当する地域包括支援センターの職員、市の担当課職員、理事長及び施設長とホーム職員が参加している。会議では、ホームの行事や感染症などの課題について話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2か月に1度の割合で定期的開催される運営推進会議に市の担当課職員及び地域包括支援センターの職員も参加し、ホームの課題等についての話し合いが行われている。また、生活保護担当者とも話し合いが行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真を多く使った広報誌「縁助居便り(エンジョイダヨリ)」を発行して、出納帳と一緒に家族へ送付している。また、家族が面会した時には家族とホーム職員の間「交換ノート」を使って職員に直接伝えられなかったことなどの情報交換も行われている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族の懇談会が行われている。また、面会時や電話連絡した時にも意見や要望を聞き、反映させるよう努めている。以前、買い物に関する苦情から「買い物事前連絡用紙」の作成に至ったこともある。改善過程に至るプロセスの説明は具体的であった。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	居室担当者として一応の職員が決められ、利用者との関係性を築いている。法人間での職員の異動は殆どないが、退職は数名みられる。対応として職員全体でカバーする体制をとり、離職等による利用者のダメージは殆ど見られていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成として外部研修へ参加するとともに、内部研修として勉強会を毎月開催している。外部研修では研修参加者は報告書をまとめて管理者に報告している。内部研修では身近な課題として感染症や服薬について検討されている。勉強会のテーマは職員に学びたいテーマを募集し、担当者がインターネット等から資料を作成して検討材料としている。		内部研修として毎月勉強会は開催されている。しかし、外部の研修の参加者は数名にとどまっている。今後、研修を効果的にしていくためにも、事業所の求める職員像と職員個々の力量を明らかにして研修計画を作成されることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の同業者の協議会の会員になり、情報誌等を受け取っている。ホームの介護等の課題など電話で相談して解決にもつなげている。		同業者の協議会の会員となっているが、会議や研修への参加は殆ど見られない。管理者のみでなく職員も含めて身近な地域の同業者との交流を深めることで、ホームのさらなる質の向上につながっていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームへの入居に関しては、直接家族から電話で問い合わせがあることも多い。入居前には管理者等が事前訪問して顔馴染みになるよう関係づくりに気を配り、その後のホーム見学でホーム利用者と輪になる時間を過ごしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホーム管理者から職員には、利用者に「寄り添う」ことや「触れ合い」の大切さを伝えている。職員も日々の生活の中で利用者に相談したり教えてもらうなど、常に利用者から学ぶ姿勢で接している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中でも利用者から思いや意向などが聞かれた時には個別の記録に記入している。利用者の思いや意向に関しては「本人の言葉」で聞いて書くことを大切に、さらに「スタッフ連絡帳」で他の職員に伝えている。連絡帳を確認した職員は押印している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は居室の担当者からも計画作成者に情報等が伝わり作成されている。作成したプランは利用者及び家族に面会時等に会って説明し、利用者及び家族が署名している。</p>		<p>職員の勤務態勢や職員の人数等により、利用者へはその場その場の対応や職員の勤務に合わせた生活リズムにならないようにとの管理者の思いがある。より明確な介護計画に基づくサービスの提供とするためにも、介護計画を利用者及び家族と一緒に作成し、また一緒に検討する機会を持つことを期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は定期的に「モニタリング記録表」で確認して、月1回開催される職員の「全体会」や「勉強会」の機会に話し合いが行われ、見直し等を行っている。また、利用者の状態の変化に応じた見直しも行われている。</p>		<p>介護計画の見直しや計画の継続の検討に関しては、毎月、ケアプランの目標、介護サービスの内容、本人や利用者、家族の思いや意向、総合的な援助の方針等を確認する項目を明確にしてから検討されることが期待される。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な通院は家族が行っているが、緊急時や家族等の都合がつかない時はホーム職員が付き添って通院している。また、外食や外出等が行事としても計画され実施されている。利用者がより多く自宅への外出や外泊が持てるよう家族とも調整を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの医療機関やホームの協力医療機関への通院が行われている。通院は原則家族が付き添うが、主治医との連絡は、ホームで最近の様子を「受診メモ」として家族に渡し、付き添った家族は医師の診断内容や薬の処方等について記載してホームへ提出している。ホームでは受診報告書を作成して確認し周知している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時にホームが終の棲家ではないことは家族等に説明している。また、重度化や終末期の対応については、家族等とも相談しながら病院や他の施設等につなげる支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーへの配慮や個人情報の保護について職員に周知し、利用者の気分等を損ねないような職員の声かけや態度は丁寧に行われている。また、利用者の記録等は事務室で管理され、面会名簿等についても直接、第三者等の目に触れないように配慮した対応が行われている。		プライバシーへの配慮や個人情報の保護等については、一般的に大切なこととしては認識が持たれている。全ての職員がさらにこのホームやホームで生活する利用者にとって大切に保護する情報等について、具体的な認識が深まるよう話し合いや検討が行われることが期待される。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝時まで利用者の様子や生活リズムの維持に配慮しながら声かけ等を行っている。遅くまで起きずに寝ている利用者へ、昼食を待つまでの間の軽い朝食の提供をしたり、夜間眠れない利用者への飲み物の提供などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も一緒に盛りつけや配膳、食器の準備をしている。また、職員の一人は利用者のテーブルと一緒に食事を摂り、食器の片付けも一緒に行っている。12月頃より感染症を配慮して併設する特別養護老人ホームで調理しているが、まもなくホームで調理を開始する予定である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は少なくとも週に2回、午前中から16時30分頃にかけて入浴している。職員のかかわれる時間で入浴することで安全面に最大限に配慮している。また、同性介護が出来ないときには着脱などにも配慮した対応が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活を送る中で利用者と寄り添いながら生活歴等を聞き、得意なことや興味あることを把握している。食事の盛りつけや配膳、洗濯物たたみ、掃除などのお手伝い、折り紙や生け花などの趣味活動が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月行事があり、外出の機会も定期的に計画されている。散歩をする際は、個別に利用者の様子を見ながら近くを歩くようにしている。また、玄関前のアプローチ(庭)が広く、そこへは気軽に出て外気浴や日光浴をしたり、地域とふれあう場所にもなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間20時～朝7時30分頃までは掛けているが日中は掛けていない。利用者も鍵の開け閉めをすることができ、気軽に玄関先を出入りできている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回は消防署立ち会いのもと防災訓練を行い、利用者2名、職員1名と代表が交代で参加している。他の利用者は見学して、訓練後は消防職員からの訓練の反省点等を踏まえての指示や指導を受けている。		特別養護老人ホームやデイサービスセンター等と併設したグループホームで、法人内の災害対策は実践されている。事業所が災害時でも地域の中の社会資源として認識されるためにも、住民参加の災害対策の検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する特別養護老人ホームの栄養士が献立をたて調理につなげている。食事量や水分量に関しては職員が把握してパソコンに入力している。また、利用者の摂取状況を確認して、補食の食事も提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るすぎることなく、また生花や植栽も多くて落ち着いた雰囲気がある。利用者の絵画や塗り絵、写真などの作品が掲示され、また、人形等も展示されているが、雰囲気を壊すことのない空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室にはホームで用意したベットがあり、またトイレも設置されている。家族の写真や花を飾り、タンス等を持ち込んでいる。ホームとしてもよりその人らしい部屋づくりをするために家族とも相談を行っている。		